

# おきのしまちよう 隠岐の島町バイオマス産業都市構想の概要

島根県隠岐の島町、人口 約1.5万人、面積 約2.4万ha

## 構想の概要

環境産業の促進による第一次・第二次産業の基盤整備により、新たな雇用の場と定住環境を確保し、それにより再生される里山・里海環境・資源を活用した体験交流の促進により、交流人口の獲得を目指す。

## 1. 将来像

- ①未利用資源の発掘・活用による第一次産業の復興
- ②里山・里海環境の恒常的な保全・再生
- ③石油代替製品の新規開発や林産・水産加工品の新規開発等による第二次産業の振興
- ④エコツーリズム等による体験交流の展開
- ⑤「緑のコンビナート」の構築による島の低炭素社会づくり

## 3. 目標

- ①木質バイオマスリグノフェノール商品の研究開発  
未利用資源活用量:5,000t、リグノフェノール製造量:1,000t
- ②木質バイオマスペレット事業  
ペレット生産量:2,000t
- ③木質バイオマスペレット発電  
小規模発電3地区:480kW、中規模発電:3,000kW
- ④ごみ処理施設のメタン発酵  
食品廃棄物:1,200t/年、発電量:630,000kWh/年、  
残渣・消化液の有機肥料利用:3,400t/年

## 4. 地域波及効果

- ①バイオマス資源の利用向上(里山の森林資源の有効活用)
- ②雇用の創出 関連産業で51名雇用創出
- ③産業の創出 ペレット工場建設、発電事業者の参入
- ④観光客の増大 80名程度増(H24観光客数の約5%)

## 2. 事業化プロジェクト

- ①木質バイオマスリグノフェノール商品・研究開発(木質バイオマスメタン発酵事業)  
・硫酸処理法によるメタン発酵
- ②木質バイオマスペレット事業(間伐材、製材屑)
- ③木質バイオマスペレット発電  
・小規模型と中規模型の併設
- ④ごみ処理施設のメタン発酵事業(木・竹・わら類及び厨芥類)  
・メタン発酵による堆肥・液肥化、ガスはハウス等で熱利用

## 5. 実施体制

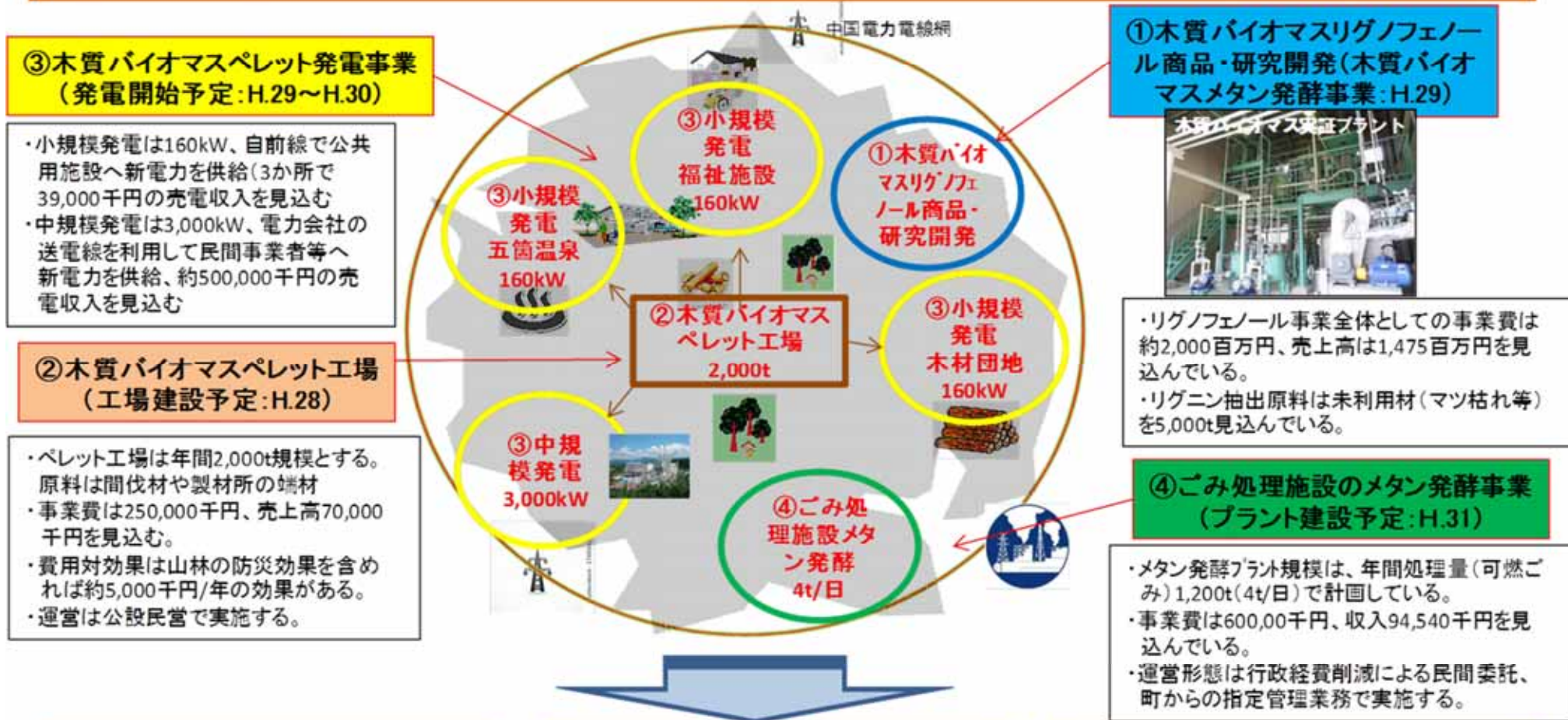
- ・隠岐の島町、森林組合、民間企業からなる「緑のコンビナート推進協議会」を中心に事業化プロジェクトを推進(H23設立)
- ・協議会には3つの部会を設置(資源供給体制の調整部会、環境産業の創出部会、広報・情報部会)
- ・協議会に内部評価委員会を結成し、研究開発状況や事業化可能性、進捗状況等を確認

## 6. その他

- ・隠岐の島町総合振興計画(H20)
- ・隠岐の島町木質バイオマス重点ビジョン(H20)
- ・隠岐の島町バイオマスタウン構想(H20)
- ・隠岐の島町再生可能エネルギー推進ビジョン(H26)

# 隠岐の島町バイオマス産業都市構想の概要

本町のバイオマス産業都市は、島の未利用資源(間伐材、林地残材、生ごみ)を地域資源と捉えて、4つのエコプロジェクトの事業化を目指す。これらの事業が達成されれば、離島における低炭素社会の構築が図られ、新たな雇用創出が期待できる。また、観光面においては、里山再生によるエコツアー等が促進され、都市部からの交流人口の拡大が促進できる。



## バイオマス利用の現状と課題

- ・木質バイオマス実証プラントで未利用材からリグニンを抽出し、環境材としての商品開発を進めている。
- ・食品残渣と木質チップによるメタン発酵とバイオマス残渣の肥料化の実証を行っている。

## バイオマス産業都市として目指す将来像

- ・島の里山、里海、里地の未利用資源を活用することにより、新たな産業を創出して、エコアイランド化を目指す。
- ・環境産業を促進することで、里山・里海の再生が図られ、エコツーリズム等による交流人口を獲得する。

## バイオマス産業都市として達成すべき目標

- ・バイオマスペレット発電等により、間伐材等の未利用資源を30,000m<sup>3</sup>活用する。
- ・町内から発生する可燃ごみ(4t/日)をメタン発酵することで行政経費の節減化を図り、処理施設の民間委託を進める。